

〈2〉中国の人口問題がもたらす社会保障制度の課題とその影響

ニッセイ基礎研究所 保険研究部 主任研究員 片山 ゆき

■概要

中国では、出生率の低下によって引き起こされる若年人口の減少、更には平均寿命の延伸によって、人口に占める高齢者数が増加する少子高齢化が進行している。社会の担い手、働き手の減少は社会サービスや社会保障の負担増、経費増を引き寄せている。国の財政が厳しさを増す中で、社会保障制度を持続可能なものにしていくにはどうするのか。中国はその答えを国債の増発といった国の責任の強化ではなく、民間市場の活用や自身で備える自助の強化に見出している。

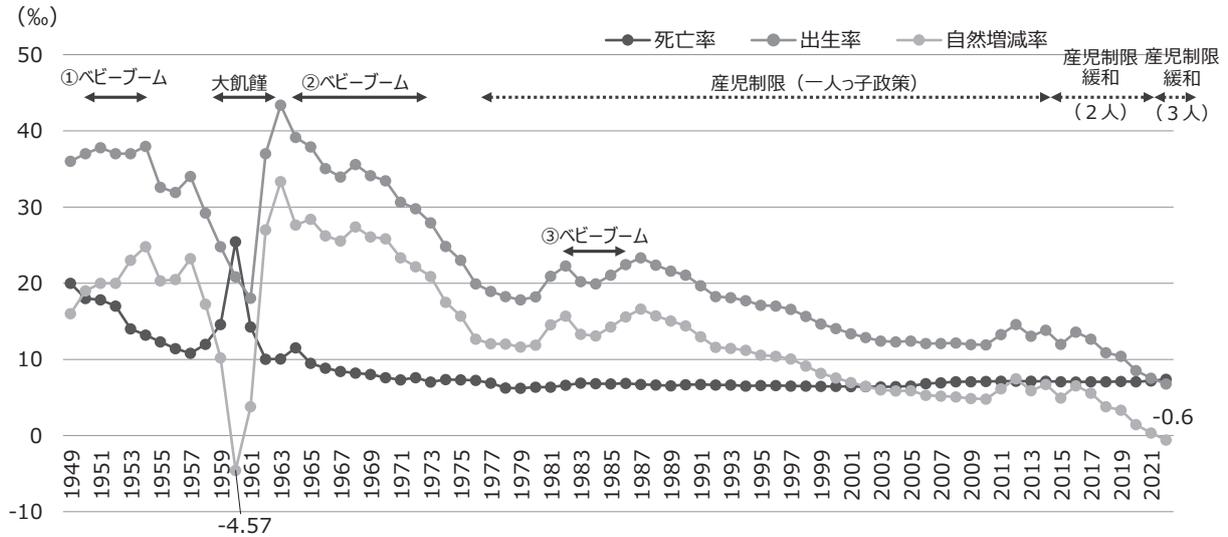
出生数の減少に対して急増しているのが死亡数である。2023年の死亡数は1,110万人で、2022年より69万人増加した。生まれてくる子どもの数(出生数)を上回る勢いで死亡数が増加しているため、人口減少が起きているのだ。今後も出生数が減少し、死亡数が増加し続ければ、現在の「少産少死」の状況から「少産多死」の多死社会—人口の多くを占める高齢者が寿命に達して死亡数が増加、これによって人口減少が加速する社会—に移行することになるであろう。

中国の人口動態を国連の「World Population Prospects 2022」に基づいて振り返ってみると、建国翌年の1950年に5.4億人であった中国の総人口(高齢化率は5.0%)は、1950年代・1960年代の第1次・第2次ベビーブームを経て大幅に増加した。同時に人口の爆発的な増加が国内外で問題化し、経済成長を促進するという名目の下、1979年から一人っ子政策にて産児制限が本格的に開始された(図表1)。

1、頭をもたげる少子高齢化・多死化

2024年1月17日、中国の国家統計局は2023年の総人口、出生数が前年に続き減少していることを発表した。2023年の総人口は14億967万人で、2022年から208万人減少し、2年連続の減少となった。また、2023年の出生数は902万人と、こちらも2022年から54万人減少している。出生数は2017年以降急速に減少しており、わずか6年の間に半減といった事態にまで至っている。

図表1 中国の出生率・死亡率・自然増減率の推移



(出所) CEIC より作成。

中国は一人っ子政策を実施しながら、2001年には高齢化社会（人口に占める高齢者の割合が7%以上）、2021年には高齢社会（人口に占める高齢者の割合が14%以上）に達している。今後、2034年には超高齢社会（人口に占める高齢者の割合が21%以上）に達する推計とされている。この高齢化社会から高齢社会への移行にかかる時間（倍化年数）は20年、高齢社会から超高齢社会に移行にかかる時間は13年（推計）となっており、そのスピードは速い。日本は前者が24年、後者が13年となっており、日本よりも速いスピードで高齢化が進んでいることになる。

一方、2085年には高齢者の割合が42.2%と最大に達し、2100年には40.9%になると推計されている。高齢者数は2050年代の後半には最大4.3億人に達する。人口の多くを占める高齢者が寿命に達することで総人口は急速に減少し続け、2100年時点で7.7億人と2021年のピーク時のおよそ半分にまで減少すると見込まれている。高齢化率が40.9%であることを考えると、国や社会は大きく変容することになる。2034年（超高齢社会）には高齢者扶養率が50.2%、1名の高齢者を1.99人の現役世代で支えることになる。死亡数がピークを迎える2060年代に向けて高齢者扶養率は上昇しており、死亡数が最大と推計される2062年には高齢者扶養率は88.6%で、1名の高齢者を1.13名の現役世代が支えることになる。

2、長寿がリスクとなる長寿化

また、少子高齢化に加えて、平均寿命・平均余命が伸び続け、長寿化も進行している。平均寿命は、2001年は72.6歳（男性70.2歳、女性75.3歳）であったが、2021年には78.2歳（男性75.5歳、女性81.2歳）と伸びている。国連の推計によると、平均寿命は今後も伸び続け、2034年には81.0歳（男性78.6歳、女性83.3歳）で、2050年には83.8歳（男性82.0歳、女性85.6歳）と推計されている。一方、65歳時の平均余命（65歳の人々が平均的にあと何年生きられるかを示す）は、2001年時点では15.7年（男性14.3年、女性17.1年）であったが、2021年時点では17.7年（男性15.8年、女性19.5年）、2034年の推計値は19.5年（男性17.8年、女性21.0年）、2050年の推計値は21.4年（男性20年、女性22.7年）となっている。つまり、老後の生活は今後さらに長くなることが予測されているのだ。

このように、少子化、高齢化が急速に進展する中で平均寿命も伸びており、中国においても長寿時代が到来している。現役世代の生活もさることながら、長期化する老後の生活にどう備えていくかが大きな課題として浮上している。つまり、医療、年金、介護といった老後の生活や健康に関する負担が増大するという長寿リスク（長生きリスク）に直面している状況だ。

しかも、中国の場合、法定退職年齢は男性が60歳、女性は50歳または55歳と比較的早く、実態と

しては多くが50代半ばでリタイアをしてしまう状況にある。65歳を超えても就業を希望したり、働けるうちはいつまでもと考える人が6割を超える日本とは大きく異なる状況にある¹。

少子高齢化の進展で、医療、年金、介護といった社会保険を支える現役世代が減少する一方、支える側の高齢者人口が増加し、更にその平均寿命が延伸している状況下では、社会保険をどう持続可能なものにしていくかが重要な課題となる。現行の社会保険制度は1990年代の若年人口が多い時期に大きな改革がされている。高齢者に多く配慮された現在の社会保険制度は持続困難となり、高齢者の就労など社会認識の変化やそれに伴う法整備、人口減少社会に適用した社会保険制度の改革が必要となる。

3、中国における社会保障の役割

人は社会で生きていく上で、様々なリスクに直面する。現代社会において、そのリスクをカバーするのに大きな役割を果たしているのが社会保障制度である。例えば、病気に罹患した場合の病院での手術や治療などを対象とした公的医療保険、仕事を失ったり、転職する際に生活の支えとなる失業保険、働いている間に不慮の事故でケガをした場合の労働災害保険、老後の生活を支える年金制度や介護保険制度などがある。上掲の医療・失業・労災・年金・介

護などは社会保障制度の中核をなし、社会保険と呼ばれている。

このように社会保障制度の特性は、社会を構成する人々が生きていく上での諸リスクを国が税金や徴収した社会保険料を通じて実施する点にある。その役割としては以下の4点が考えられる。まず、①生活の安定をはかり、安心をもたらす社会的安全装置（社会的セーフティネット）としての役割、②市場経済を通じて個人や集団に分配された資源の一部を社会保険料の形で徴収し、政府が一定の基準や必要度に応じて再分配する役割、③人々の生活を脅かす共通のリスクに対して共同で対処する仕組みを作り、リスクを分散する役割、④経済変動が個人の生活に与える影響を緩和し、経済の安定や成長を側面的に支える役割である。

なお、中国の社会保障制度は大きく分けて、社会救済（生活保護など）、社会福祉（高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉など）、社会保険（年金、医療、労災、失業、介護（試行）、軍人保障（恩給など））がある。それに企業福利や民間保険、NPOを加えることで社会保障体系を構築している（図表2）。中国の社会保障制度体系の特徴は、給付内容を基礎的なものにとどめ、民間保障などを取り込んだ多層的な構造にすることで、持続可能性を高めようとしている点にある。

¹ 内閣府（2019）「令和元年度 高齢者の経済生活に関する調査」